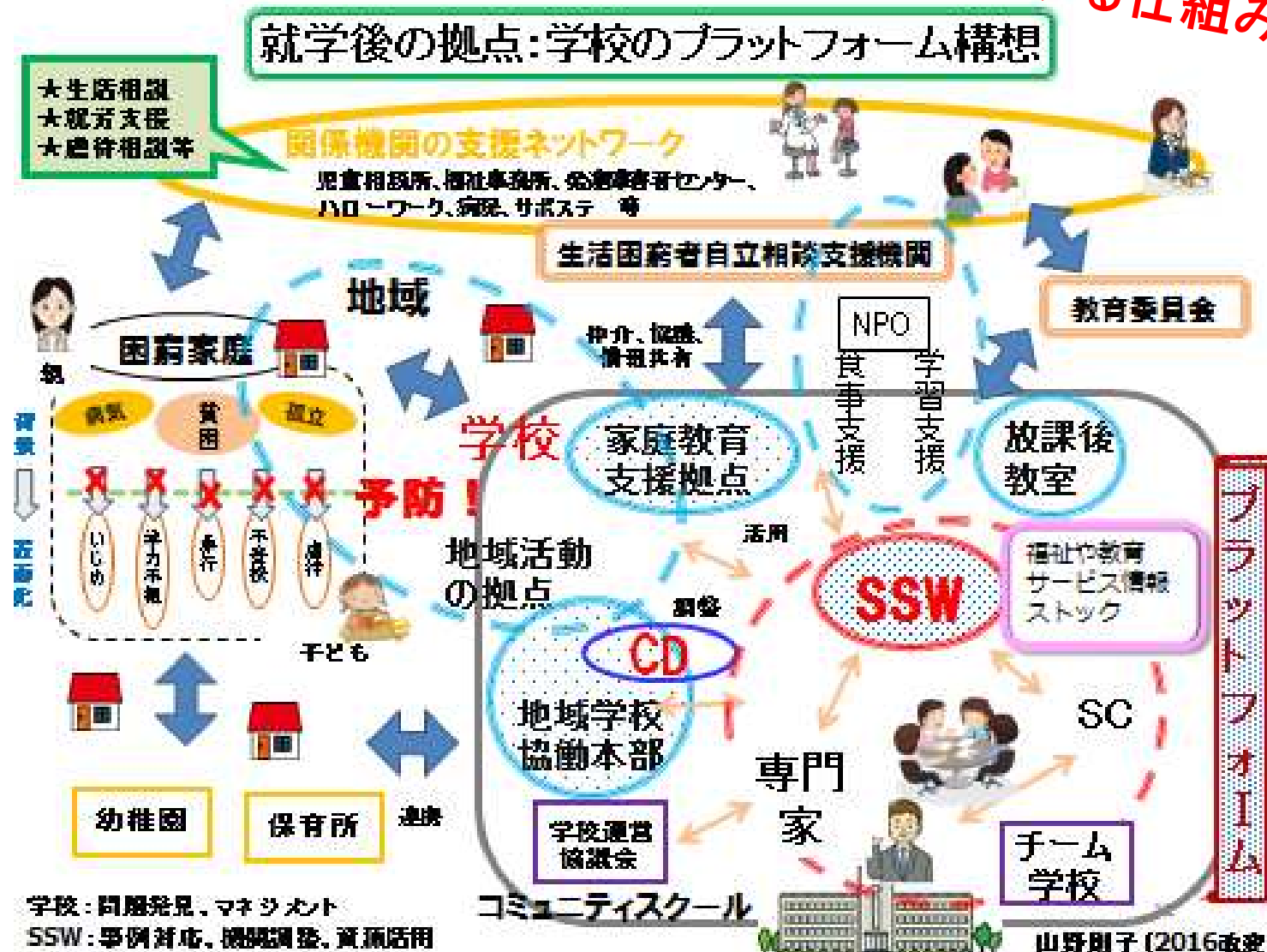


調査結果からプラン・施策とつなぐ 例) 学校プラットフォーム

学校プラットフォーム：取り組みが見えない→可視化→届ける へ

事業を並べるだけでは不十分、
機能する仕組みが必要！

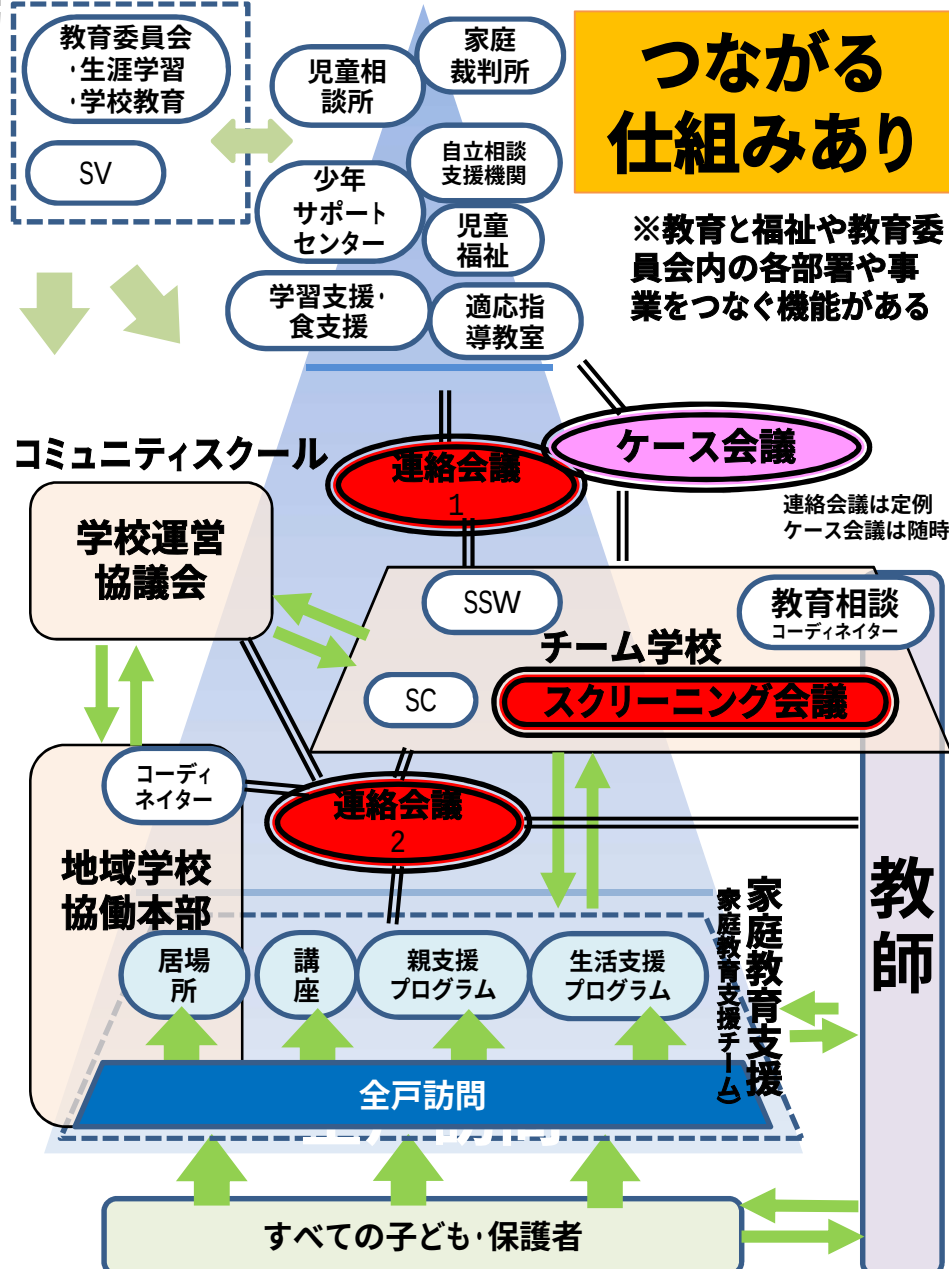
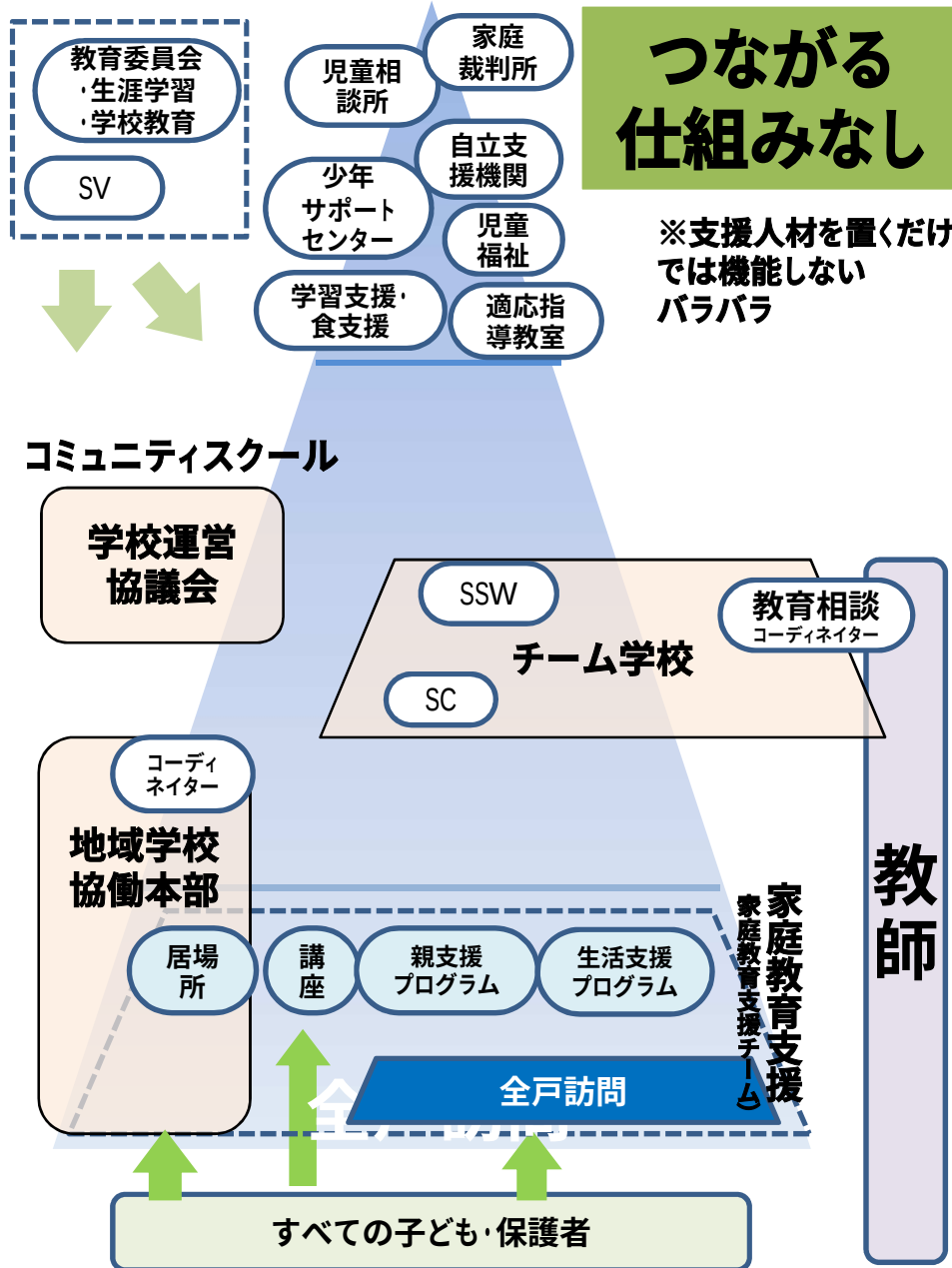
地域活用の
イメージ重要！



学校・家庭・地域をつなぐ仕組み作りとその制度化 (例:各会議の定例化)

※背景の▲はすべての子供から上に行くほどリスクの高い層を表す

文科省「児童生徒の教育相談の充実について」P28に掲載



⇒スクリーニング会議の意義

- ・多面的に把握していないと救えない
：例) ○○事件 (不登校＋非行＋貧困＋いじめ)
- ・上記例のように「教師の気なる」ではなく、全数から拾い出す必要。
＝すでに各教師が何らかの把握をしている項目を合体させるのみ。
- ・重症化してからの継続的家庭訪問、苦情対応、裁判など過重負担、早期にアプローチすれば教師の労力減で済む。

(実際に実施している教師の声)

多面的な視点が得られた

横ぐしを指す感じで発見できた

次の動きがみえ、事例があがるようになる

担任の抱え込みがなくなりチーム対応ができた

問題が軽微な間に動くので、事例に変化しやすい

負担が減るなど実際も精神的にも楽になった

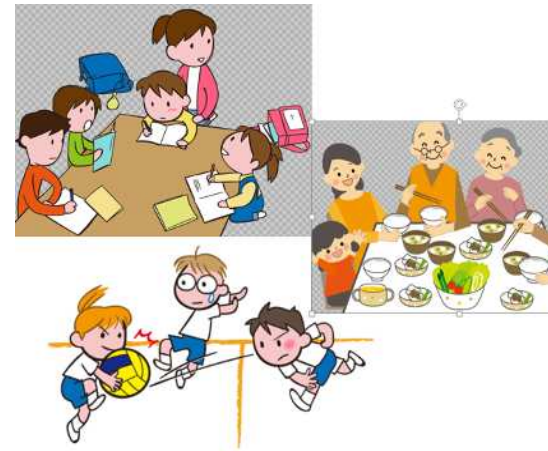
キープポイント:スクリーニングと連絡会の関係



①

学校と専門機関の**連絡会1**
ケース会議へ

②



地域人材による支援
調整展開
（**繋がる場**）

予防

③

スクリーニングリスト

		※該当項目に●。																	
組	氏名	生指		担任				体育科	主任	教頭	保健		事務						
		● 5 個 以上	欠 席 1 0 日 以 上 （ 6 月 ま で ） は	欠 席	遅 刻 （ 週 2 回 以 上 が 1 回 で も ）	人 間 関 係	家 庭 環 境	落 ち 着 き が な い	上 ） 体 操 着 忘 れ （ 3 回 以 上 ）	点 未 満 定 期 テ ス ト 平 均 3 0	要 対 協 ケ ー ス	生 活 保 護	保 健 室 へ の 来 室	就 学 援 助	諸 費 滞 納 ・ 遅 れ が ち				
4	△△ △△			5	●				●						●				
4	△△ △△	☆	★	11	●		●			●	●			●	●				
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			2		●									●				
4	△△ △△			1				●											
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			0															
4	△△ △△			2			●												
4	△△ △△	☆		8	●	●	●		●	●									

ワンポイントによる担任見守り

- ① 児童相談所など専門機関での支援実行
- ② 地域の子ども食堂、学習支援、家庭教育支援等を活用
- ③ ポイントを決めた担任見守り

取り組みの評価

**<学校で行う子ども
食堂>**

SSW、CSWの働きか
け→自治会主催
＋学校(教師)＋関係
機関(家児相、法人、
包括支援センター)＋
医療機関(歯科医)



+企業+医療機関 (歯科医)



企業の寄付: 歯ブラシ、簡易水道創設
歯医者: 歯磨き後のチェック、そして教室へ

**取り組みや支援など全体像を見える化させ、
家庭、学校、地域が相互補完する必要がある！**

《行政や学校》

着眼1：全体像を作る

＝学校プラットフォーム

(地域とつながる→家庭教育支援含む)

着眼2：学校でできること＝チーム学校

スクリーニング⇔地域 とつなぐ仕組みを作る

《地域》

指導型でなく、当事性が高いこと重要

★モデル事業ではこれらに取り組んでいる★